



千話万来

2020年4月 269号



株式会社セイビシー 茂木健志・小玉亜衣

TEL027-266-6855/FAX027-266-6856

E-mail icbc@inxcbc.co.jp

URL <http://www.inxcbc.co.jp> 〒379-2121 群馬県前橋市小墾原町1082-3

— 問題解決の難しさ —



いま私たちが直面している新型コロナウィルスの問題。

感染力が高いうえに、重症化すると死に至るケースもあり、「新型」と名がついているように効果の期待できる薬やワクチン、ウィルスの特性、人間が感染した場合の症状、再感染の有無など未知なるものとの戦いが強いられています。わからない中、手探りで、過去の経験、知識、発生から現在に至るまでのデータを集め、分析し、何とか解決していこうと世界中が、日本中が丸丸となってこの新型コロナウィルスと戦う日々が続いております。

思い起こせば1月ごろに中国の武漢で大流行し始め、横浜港のクルーズ船ダイヤモンドプリンセス号乗客の感染、北海道で感染者が増えたなどのニュースを、大変だなあとテレビ越しに眺め、そう感じていました。そう、その時の私は他人事としてこの問題を捉えていました。

2月末に、全国一斉の休校要請が出たあたりからでしょうか、自分の身にも規制がかかってきました。子供が学校へ行けない。この時にまだ群馬県では感染者の発表がなかったのも、どちらかというと感染の危機感という問題より、学校が休みになることが問題でした。この対策は本当に効果の出ることなのか？もつと他の対策のほうが重要なのではないかと疑問を抱えていました。

知名度の高い、志村けんさんの感染と重症症状、発症からお亡くなりになれるまでの速さなどの報道を受け、身近に感じている方の死に直面することで、他人事じゃない、いつ自分や家族が感染するのかかわからないと感じた方も多かったのではないのでしょうか。

— 問題との向き合い方 —

問題をどのように捉えるのか？問題の大きさ、重大さを同じ温度で感じてもらえるか？

そして、その対策の目的、意味をどれくらい納得して、理解してもらえるか

納得して理解した上で、どれくらい協力してもらえるのか、実際に行動に移してもらえるのか、解決に向けての自主的な動きをしてくれるのか、その難しさを感じます。

こんなに大変な事態なのに、まだまだ他人ごと、やらされごとの人がいる。自粛させられていると感じている人、何とか規制の目を潜り抜けようとしている人はまだまだ他人事なのだと思います。

このような方々に問題を理解してもらえるのにはどのように働きかけたらいいのでしょうか？

一方、自分達に出来ることは何だろうと、積極的に動き出している企業さんの動きもニュースや記事でたくさん拝見しております。数々の素晴らしい働きかけに、行動力に驚かされ、感動いたしました。これこそが、やらされごとではなく、問題解決に協力したい、自分達に出来ることを協力していこうという姿勢そのものだと思います。

— 副作用の軽減対策 —

ただ、今回の場合、人類の命を優先するという対策をすることで対策による副作用の大きさも莫大です。人々の自棄、休業要請による廃業、経営難、失業、収入減、経済環境の悪化、休校による学習カリキュラムの遅れ、体力の低下、栄養バランスの乱れ、突然の環境変化による精神的ストレスなど、様々ですが、今見えている副作用よりもっとたくさんの副作用が出ることも予測されます。この副作用をいかに軽減するか対策も必要となってきます。経済の問題、学習カリキュラムの問題は、政府や担当機関にお任せするしかないので、私たちにできることは何でしょう？ 平穏な日常を取り戻すために出来ること、必要なことを考えていきたいと思います。

— この問題から学ぶこと —

問題と感じてもらい、対策の必要性を理解してもらい、理解した上で、各自が自分事として責任感を持った行動をしたもらうために、何をすればいいのか考え、伝え方を考え、協力を仰いでいかないと問題が解決されない、対策の効果さえ確認できない。

同意して、積極的に協力してくれる人たちからは、持っている技術や知識、材料、仕組みの提供など、自分では考えつかなかった対策を教えてもらえる。

対策には、副作用が出ることもあり、副作用に対する対策も考えた上で、対策の実行を始める必要がある。

一緒に問題に立ち向かういろいろな立場の人々の気持ちや声に聴く耳を立てる必要がある。

過酷な状況、制限された環境に置かれることで、平穏な当たり前の日常のありがたさや今ある命の大切さを切実に感じる事が出来る。

未曾有の出来事に備えて、日頃から危機管理対策は十分すぎても無駄ではない。

日頃からの衛生管理の大切さ、マナーの大切さを学び、皆が実行していく必要があること。

問題解決にはかかわる人々すべての協力が必要であること。全員が自分事として捉えること。

医療や福祉体制について、もっと政治に興味を持って、真剣にかかわっていくこと。

まだまだ学ぶところがたくさんあります。

今回の問題に関して、是非、職場で、家庭で、仲間で、どうすればよかったのか、またこれからどうすればいいのか、自分達に出来ることは何なのか考える機会を作ってください。

この惨事を糧に、今後の様々な問題解決との向き合い方、取り組み方を見直してください。まだまだ終息というゴールは見えませんが、みんなで同じ方向を向いて、助け合って、協力し合って、乗り切っていきたいです。平穏な日常の中、2020年の思い出話ができる日を願って。

